八代市新庁舎建設基本設計方針

平成２９年１２月

パブリックコメント

○ 市民の皆様の積極的なご意見をお待ちしております

ご不明な点などございましたら、財務部　新庁舎建設課　45-5523

までお問い合わせください。

新庁舎建設基本設計方針

1．新庁舎建設の背景

八代市役所の旧庁舎は昭和47年6月に竣工後、平成17年の市町村合併のときから本庁舎として使用し、平成26年に手狭なため千丁支所へ教育委員会が移る変化などを経て、平成28年の熊本地震での閉鎖まで約４４年間にわたり、市庁舎の機能を担ってきました。

現在は仮庁舎など複数の施設に分かれ市民サービスを代行し提供している状況です。

以上の背景から一刻も早い本庁の機能の回復を求められています。

2．新庁舎建設の基本条件

◇新市庁舎の規模

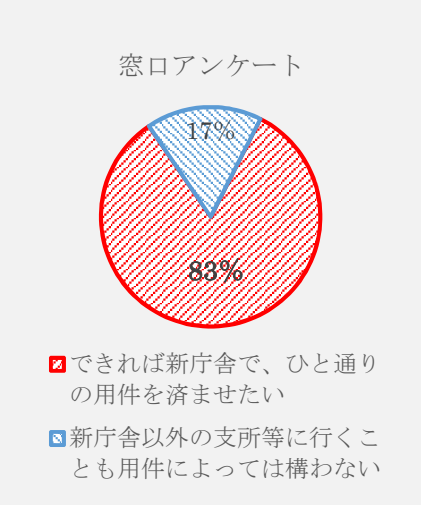
本庁舎としての機能と併せ、熊本地震を教訓とし防災機能を充実させ、市民の利用しやすい窓口や利便性を高め、まちの拠点としての機能に対応した庁舎の規模として計画を進めております。

新庁舎の規模は、基本構想において約 19,000 ㎡としてお示ししましたが、上記の「防災拠点」「利用しやすい窓口」「まちづくり拠点」などに対応する床面積を本庁舎機能と合わせた結果、庁舎の規模は約 26,000 ㎡程度となる見込みです。

◇新市庁舎の組織

来庁された皆様方に窓口でアンケート調査を行ったところ、新庁舎において、ひと通りの用件を済ませたいという希望が多く見受けられました。下記の市役所としての機能を市民の利便性や配置などを見直すことも考慮し新庁舎での配置を検討しています。

〇福祉（介護・保育など）のこと
〇教育（学校・教育相談など）のこと
〇建物や道路、公園のこと
〇下水道や水道のこと
〇自治会や地域のこと
〇農業、林業、水産業のこと
〇環境やゴミのこと
〇産業、観光や文化のこと
〇健康検診や健康指導のこと
〇議会（傍聴）のこと



◇基本方針

H28年「八代市新庁舎建設基本構想」（以下構想という）

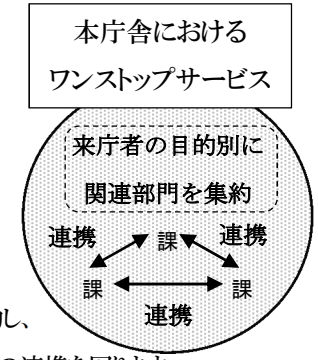
構想で定める７つの基本方針を重要な項目として検討してきました。
以下は、来庁者のアンケートにおいて順位をつけた結果です。

〇市民にやさしい庁舎　（１位）
〇交流の拠点となる庁舎　（２位）
〇安全・安心の拠点となる庁舎　（３位）
〇変化に対応できる庁舎　（４位）
〇環境にやさしい庁舎　（同率５位）
〇歴史と景観に調和した庁舎　（同率５位）
〇市民に親しまれる議会庁舎　（７位）

アンケート上位３位の項目は次のページ以下のとおり基本設計において計画しています。

◇市民にやさしい庁舎

全ての市民・利用者にとって分かりやすく、利用しやすい窓口環境をつくります。市民が各種申請や相談などを行う上で必要となる部門を配置し、来庁者の利便性の向上を図ります。



●窓口機能

①市民利用が多い窓口関係部門は、市民に分かりやすく使いやすいよう建物低層階に配置します。

②必要に応じて個別ブースや個室を設置するなど、市民が安心して相談が行えるよう計画します。

③子育て部門や高齢福祉部門など、関連部門を集約し、来庁者の目的に合わせた配置を検討し、関連部門の連携を図ります。

●案内機能

①来庁者が見つけやすく、わかりやすい場所に総合案内を配置します。

●ユニバーサルデザイン

①子育て中の来庁者が落ち着いて利用できるよう、キッズスペース等の空間を計画します。

②障がいのある方や子どもにも配慮し、一般利用トイレと併せて多機能トイレを計画します。

③往来の多い廊下等は、十分な広さを確保し、移動しやすいよう配慮します。

●サイン計画

①来庁者の誰もが利用しやすい庁舎を目指し、分かりやすく、見やすいサイン計画とします。

・業務内容を示す「目的語　表記」の表示

・カラーバリアフリー(色)による誘導

○交流の拠点となる庁舎

八代のまちを結ぶ、市民のための「交流拠点」を目指します。

交流の拠点となる庁舎として、「様々な市民活動ができる空間」や「八代の魅力を発信する空間」、「便利な空間」を計画します。また、休庁日や開庁時間外の利用を前提にセキュリティ等に配慮した空間を計画します。

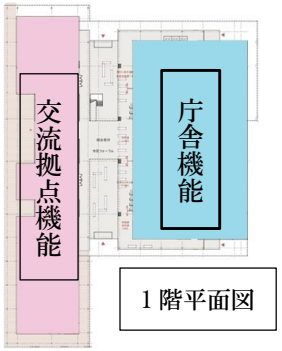
今後も市民をはじめ関係機関などと協議を行いながら、検討を進めていきます。

●様々な市民活動ができる空間

市民協働の空間として、協働の担い手となる市民が集える空間を確保する計画とします。交流空間として(外部の広場を含む)、市民の待ち合わせや休憩の場として利用されるとともに市民活動や、その成果を展示などの空間を計画します。

●八代の魅力を発信する空間

イベント開催や観光案内、物産紹介等、多目的利用できる公共的なスペースを計画します。市内で行われる行事や各種案内などの情報を広く提供できるよう計画します。

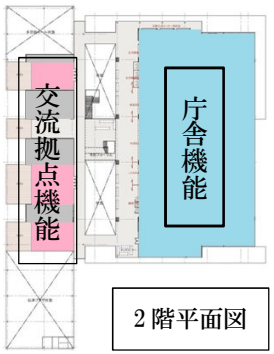


1階平面図

●便利な空間

売店や自動販売機、現金自動預払機(ATM)を設置し、待ち合わせ等での利用や軽食を楽しむ事などができる空間を計画します。

飲食可能な空間を配置し、より利用しやすく、交流しやすいよう計画します。子育て中の来庁者も想定し、授乳室などサービス性の高い空間を計画します。



2階平面図

○安全・安心の拠点となる庁舎

普段は安心して利用でき、被災時は災害対策拠点に早変わりする庁舎

地震対策（免震構造等）

・来庁者や職員の安全確保と大地震発生時にも十分な機能確保が図れる計画とします。
・大地震後も大きな補修なく使用できることを目標とします。
・内部の天井落下や家具の転倒防止を行い、外装のガラスの落下や破損を防止し建物内外の安全性を高めます。

風水害対策

・重要な機器（電算サーバー、受変電設備、非常用発電機など）を浸水から守るため中層以上の階に配置します。
・台風や豪雨の浸水を想定し盛土を行います。
・台風や豪雨の風雨に対応した外装の建具を計画します。

事業継続対策

・災害においてライフライン（電気、水道、下水など）に障害があっても７２時間を目処に自立災害活動を継続できるように計画します。
・災害時のボランティア等の外部支援や災害対応機能を市民利用部門や地階を活用し市庁舎本来の機能を確保しながら復旧・復興を行えるように計画します。

参考画像

「東日本大震災後の石巻市本庁舎」復興業務などが増えたために庁舎ロビーで業務を行っている状況が判ります。

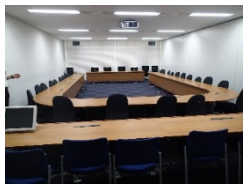
（画像は、震災後４年目の２０１５年に撮影されたものです）

防災・防犯機能

対策本部を開設するための情報システム、通信機器、非常電源装置などを整備して有事に備えた庁舎を検討し必要となる物資や資機材等の備蓄を計画します。

また、市民に開かれた庁舎とすることを前提として、様々な個人情報などの保護や不審者の侵入防止などの防犯上、庁舎内のセキュリティ対策を強化し、災害時においても支障なく対応できる庁舎とします。

災害対策本部機能



大地震など様々な危機に迅速に対応できるよう、災害対策本部関連諸室を整備し、通常は執務、会議等に利用します。

市内外の被災状況情報収集、消防本部等の組織と情報受伝達、調整を行う「情報収集室」および「災害対策本部事務室」、本部長（市長）や本部員が情報を基に緊急対策の決定を行う「災害対策本部」を計画します。

例 青梅市災害対策本部

被災時対応機能

災害応急対策の「被災状況の把握」「避難者支援」「応急対策」と共に熊本県、他自治体や自衛隊などの他組織の応援や支援物資の仕分け、ボランティア活動などへの空間の確保を計画します。

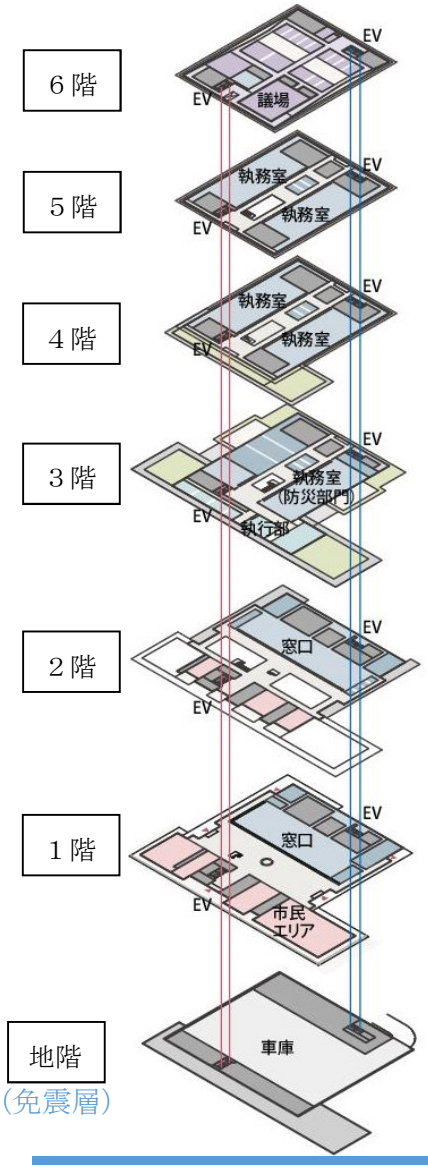
また、上記の災害時の対応を雨天でも行えるように検討します。

例　長岡市　災害対応機能

例　益城町　援助物資

３．平面計画

主な窓口部門を１階および２階に集約し来庁者にやさしく、判りやすい庁舎とします。庁舎の機能や業務上の関連がある部署を出来るだけ近くに配置し、判りやすく使いやすくします。



議会部門
来庁者用の展望スペースを検討します

一般業務部門
比較的市民利用の少ない部門を配置。

一般業務部門
比較的市民利用の少ない部門を配置。

防災・執行部部門
防災本部部門を移動し易い階に配置

窓口部門
主に「こども」と「税」部門を配置

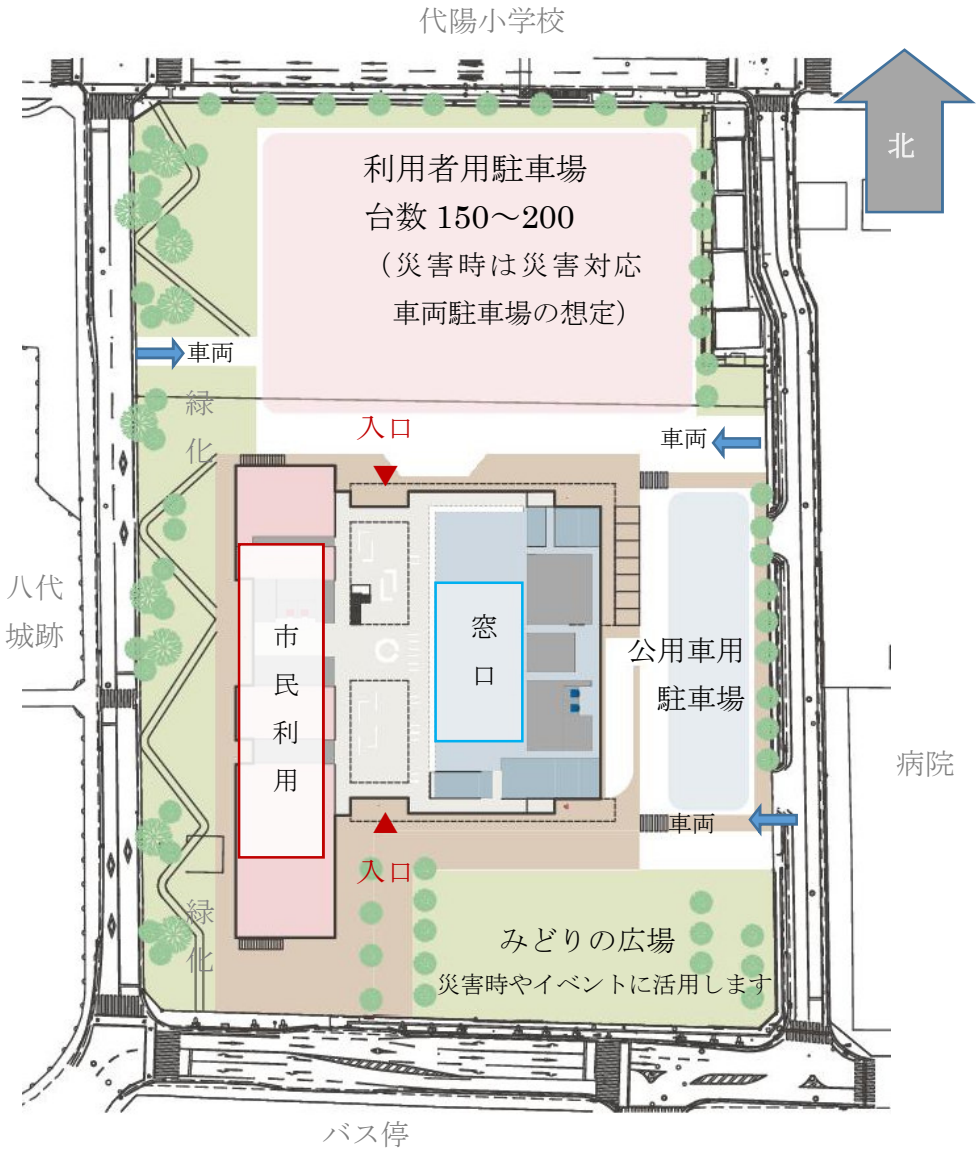
窓口部門
主に「証明」「高齢者」「支払い」部門を配置

防災（車庫）部門
天候に左右されない災害活動の支援空間
通常は車庫として利用する。

建築概要　鉄筋コンクリート造（免震構造）６階　約２万６千㎡

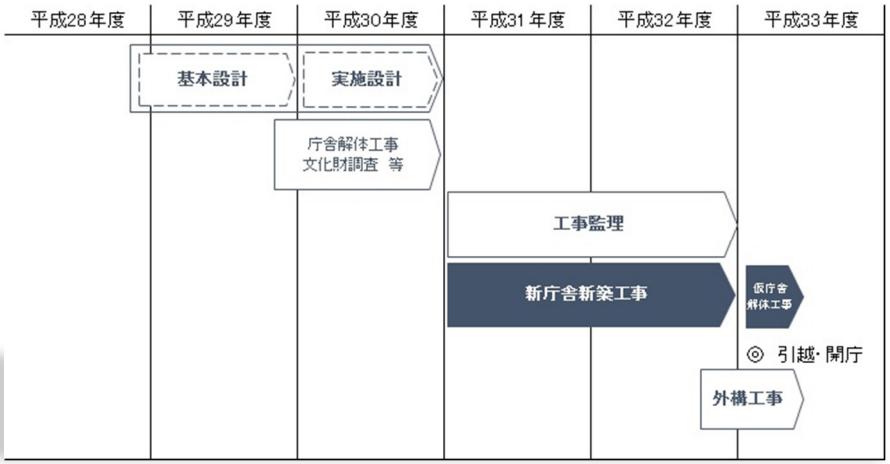
４．配置計画

入口から入ると左右に「市民利用部門」と「窓口部門」が分かれる明快で迷わない空間構成となるように計画します。



５．スケジュール　等

〈工事工程表〉



平成３３年３月　しゅん工を目指します。

〈概算建設事業費〉

区　　分	数　量 ㎡	概算費 億円	備　考
建築本体工事費	約２万６千㎡	１３０億	
その他工事費	―	２２億	庁舎解体費 外構費等
その他経費	―	１０億	文化財調査 設計費等
合　計		１６２億	

※工事工程・建設事業費については、今後変更となる場合があります。

パブリックコメントの参考様式

意　見　提　出　様　式	
住所(必須)	八代市
氏名(必須)	
＜意見欄＞	

※意見提出様式は任意です。この様式以外でも提出していただけます。
※意見提出に際しては「**住所**」「**氏名**」の記入が必要になります。

問い合わせ先　八代市新庁舎建設課　℡０９６５-４５-５５２３（直通）
ＦＡＸ　０９６５-３２-８９４４（代表）